

地方道改築（一）苅谷津幡線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

津幡町

加賀爪B遺跡

2017

石川県教育委員会
(公財)石川県埋蔵文化財センター

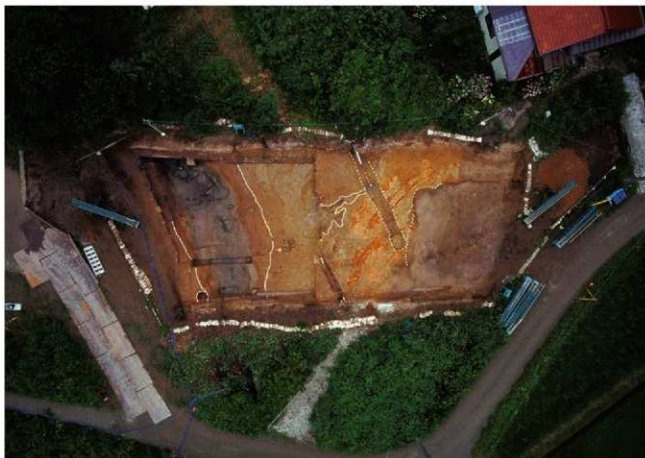
か が つ め
加賀爪B遺跡

2017

石 川 県 教 育 委 員 会
(公財)石川県埋蔵文化財センター



調査区遠景（東から 赤枠が調査区）



調査区全景（上が北）

例 言

- 1 本書は加賀爪B遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は石川県河北郡津幡町加賀爪地内である。
- 3 調査原因は地方道改築事業一般県道筋谷津幡線であり、同事業を所管する石川県県央土木総合事務所(石川県土木部道路建設課)が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は公益財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成27(2015)～28(2016)年度に実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。
- 5 調査にかかる費用は、石川県土木部道路建設課が負担した。
- 6 現地調査は平成27年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。

期 間	平成27年5月22日～平成27年7月23日
面 積	460㎡
担 当	調査部県関係調査グループ
担当者	熊谷葉月(主幹)、瀧野勝利(専門員)
- 7 出土品整理は平成28年度に実施し、調査部国関係調査グループ・県関係調査グループ・特定事業関係調査グループが担当した。
- 8 報告書の作成・編集・刊行は平成28年度に実施し、調査部県関係調査グループが担当した。執筆・編集は熊谷葉月(主幹)が行った。
- 9 調査には下記の機関の協力を得た。

石川県土木部道路建設課、石川県県央土木総合事務所、津幡町教育委員会
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1) 方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系(世界測地系：測地成果2000)に準拠した。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T.P.(東京湾平均海面標高)による。
 - (3) 出土遺物番号は挿図と写真で対応する。
 - (4) 遺物実測図については、須恵器は断面黒塗り、その他は白抜きとし、弥生土器・土師器の赤彩処理は薄い網掛け、内黒処理は濃い網掛けでその範囲を示した。

目 次

第1章 調査の経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第3節 整理等作業の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	6
第1節 調査概要	6
第2節 遺構 (SD1)	6
第3節 出土遺物	7
第4節 小 結	8

挿 図 目 次

第1図 調査区配置図	2	第7図 北壁(東側)土層図	11
第2図 遺跡の位置	3	第8図 南壁土層図	11
第3図 周辺遺跡分布図	4	第9図 SD1北アゼ土層図	12
第4図 調査区平面図	9	第10図 SD1南アゼ土層図	12
第5図 遺構図	10	第11~16図 SD1出土土器	13~17
第6図 北壁(西側)土層図	10	第17図 SD1出土碗形滓・輪羽口・砥石	19

表 目 次

第1表 周辺の遺跡	5	第4表 SD1輪羽口観察表	22
第2表 SD1土器観察表	20	第5表 SD1砥石観察表	22
第3表 SD1鉄滓観察表	22	第6表 SD1鉄滓計測表	22

図 版 目 次

巻頭図版 (調査区遠景 調査区全景)

写真図版1 SD1完掘状況(北から 北東から)

写真図版2 SD1北アゼ 南アゼ

写真図版3 SD1土器出土状況ほか

写真図版4~8 SD1出土遺物

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

本発掘調査は、石川県土木部道路建築課・県央土木総合事務所が所管する地方道改良事業 一般県道 筋谷津幡線に伴うものである。平成26年2月に石川県教育委員会文化財課が分布調査を行い、調査範囲を確定した。平成27年3月20日付けで文化財保護法第94条に基づく発掘通知が県教委宛に提出され、県教委に調査を委託された公益財団法人石川県埋蔵文化財センターは、平成27年5月15日付けで発掘調査届を提出し、同年5月22日に調査に着手した。

なお、当初、所在地を津幡町杉瀬地内、遺跡名を杉瀬ニシウラB遺跡としていたが、調査着手時、調査区に当る箇所は津幡町加賀爪地内と判明し、平成28年度末に加賀爪B遺跡と変更した。

第2節 調査の経過

平成27年5月12日に県央土木総合事務所、文化財課、埋文センターで現地確認を行い、5月22日に調査区隣接の民家出入口および調査区内を通る水道管の切り回しのための掘削作業から着手し、調査区の表土除去作業は6月2日から行った。調査区東半は昭和21年の米軍航空写真などにも見られる旧津幡川流路と推測されており、その西岸を確認した。調査区西半は弥生土器等の遺物が出土する南北方向の河川跡を検出した。6月4日から遺構検出・掘削作業を開始した。北側で検出面より深さ1.8mとなり、当初見込みより掘削量が多くなったため予定より2週間程度遅れが生じた。また6月19日には津幡町長および町議会議員、区長等から成る津幡町道路建設期成同盟会の視察があった。7月9日にラジオコントロールヘリコプターによる空中写真測量を実施した。

調査日誌（抄）

5月12日	現地確認・打ち合わせ	6月19日	津幡町道路建設期成同盟会視察
5月22日	調査着手（民家出入口造成等）	7月9日	空中写真測量撮影
6月2日	表土除去作業（～4日）	7月13日	埋め戻し作業（～14日）
6月4日	作業員による掘削開始・遺構検出作業	7月17日	終了確認 引き渡し
6月8日	遺構検出状況撮影 遺構掘削開始	7月23日	撤収終了

調査体制

調査主体	公益財団法人石川県埋蔵文化財センター（理事長 木下公司）
総括	柴田政秋（専務理事）
事務	釜親利雄（事務局長）
総務	長嶋 誠（総務グループリーダー）
調査	福島正実（所長） 藤田邦雄（調査部長）
担当	松山和彦（県関係調査グループリーダー） 熊谷葉月（県関係調査グループ主幹） 瀧野勝利（県関係調査グループ専門員）

第3節 整理等作業の経過

整理発掘調査にかかる出土品整理作業は事業者と県教委の協議により平成28年度に実施することとなり、作業を県埋文センターが行った。県埋文センターでの整理内容、整理体制は下記のとおりである。

整理内容

出土遺物の記名・分類・接合、実測、トレース、遺構図トレース

整理体制

調査主体 公益財団法人石川県埋蔵文化財センター（理事長 田中新太郎）

総 括 柴田政秋（専務理事）

事 務 釜親利雄（事務局長）

総 務 長嶋 誠（総務グループリーダー）

調 査 福島正実（所長）

藤田邦雄（調査部長）

担 当 国関係調査グループ 県関係調査グループ 特定事業調査グループ



第1図 調査区配置図(S 1/5,000)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

本遺跡は津幡町南部の加賀爪地内に所在する。石川県は南北に長く、津幡町はその中央に位置しており、東側の丘陵部と西側の平野部に大きくは分けられる。東の丘陵に源流のある津幡川とその支流が沖積平野を形成し、河北潟、日本海へと流れる。また、河北潟の水面は古代以前には丘陵部近くまで及んでいたと推定されている。

本遺跡は、津幡丘陵の裾部から150m南、津幡川とその支流である倉見川の分岐地点に近く、両河川に挟まれた微高地上に立地している。南から西にかけて沖積低地である河北平野が広がる。津幡川をはじめとする周辺の河川は、古くより水運としても利用されていた。また遺跡の北側には、加賀から越中へ抜ける、かつての北国街道が残り、陸路でも交通の要衝であった。

昭和30年代までの津幡川は、町の中心部の南側を蛇行し、西の平野部では直線的になっていた。昭和39年の大水害を契機として、改修工事が計画され、川幅を広げ、流路を直線化し、昭和44年に完成している。本調査の東半でも、この時に埋め立てられたとみられる旧流路が検出されている。



第2図 遺跡の位置

第2節 歴史的環境

本遺跡周辺 5 km程度に広がる遺跡を概観する。縄文時代においては加茂遺跡(30)で晩期の河道跡と木組み遺構が確認されている。北中条遺跡(25)では後期～晩期の土器や石器が多く出土している。

弥生時代前期から中期にかけての遺跡が比較的少ない。加茂遺跡の下層で、弥生時代中期の存在が確認されている。弥生時代後期からは遺跡数がかなり増え、集落では、中期の水田跡が検出された加茂遺跡のほか、本遺跡に比較的近いところでは、高地性集落で堅穴建物1棟が検出された杉瀬五月天窪の山遺跡(33)、堅穴建物4棟が検出された七野ムカイヤマ遺跡(17)、竹橋油木谷遺跡(15)など小規模な集落遺跡があげられる。墳墓では、四隅突出墓や台状墓10基が検出された、七野墳墓群(18)、玉類、鉄刀などを持つ5基の集団墓が検出された東荒屋ナカサイ遺跡(32)、があり、北中条遺跡では、大型の堅穴建物や掘立柱建物群のほか、方形周溝墓群や珠文鏡、玉類も出土している。

古墳時代では、方墳2基からなる太白台古墳群(4)、円墳2基からなる浅田古墳群(22)などがある。

七野墳墓群の報告(2010)の中で、弥生時代後期後半～終末期の町内遺跡を①町中央から南部の平坦部で河北潟東岸の拠点集落(北中条遺跡、加賀爪遺跡(3)ほか)、②町北部の丘陵部から平坦部にかけての転換部の集落(加茂遺跡ほか)、③町東部の山間部で、俱利伽羅峠越えルート脇の小規模な高地性集落(七野墳墓群、東荒屋ナカサイ遺跡ほか)に分類している。

奈良・平安時代には公的な様相の見られる大規模な遺跡が町北部の加茂遺跡と南西の平野部を中心



第3図 周辺遺跡分布図 (S=1/20,000)

に展開する。加茂遺跡は、日本最古の御触書として重要文化財となった「加賀郡勝示札」が出土し、8世紀代から9世紀にかけて、大型建物群が水運として利用された大溝を持つ大規模遺跡である。また墨書土器「鴨寺」や瓦が出土し、寺院の存在が明らかになっている。北中条遺跡では墨書土器「深見驛」のほか、木簡、多数の墨書土器が出土した。小規模な遺跡では、倉見オウラント遺跡(12、13)や竹橋油木谷遺跡などで調査例がある。

中近世では概要の判明している遺跡は少ない。清水遺跡(8)は近年の調査で、源平合戦で木曾義仲軍に加わった津波田氏の居館であった可能性が指摘されている。津幡城跡(7)は、俱利伽羅峠の戦いでは、平家の陣が、戦国時代には能登侵攻で上杉の陣が、その後は越中への備えとして前田家が城を置いたといわれている。

本遺跡に隣接する遺跡として、古代・中世の杉瀬ニシウラ遺跡(2)がある。未調査のため概要は不

県番号	遺跡名	現状	種別	時代	発掘調査等履歴	備考
1	1311900 加賀爪古遺跡	畑地	集落	弥生、古代、中世		本報告
2	1311200 杉瀬ニシウラ遺跡	畑地	集落	古代、中世		
3	1309600 加賀爪遺跡	牧地	散布地	古墳		校庭建設工事で一部掘壊。
4	1302400 太白金古墳群	山林	古墳	古墳		方墳2基よりなる。 1号墳辺8m×高1.5m。 2号墳辺7m×高0.5m。
5	1302500 津幡遺跡	山林、社地	散布地	古墳		
6	1303600 津幡スライヤマ遺跡	畑地	散布地	古墳		
7	1302700 津幡城跡	牧地	城跡	中世、近世		町指定史跡。旧津幡小学校校地。
8	1311300 清水遺跡	宅地、水田	集落	弥生、中世	2012年度町発掘	
9	1311100 杉瀬八幡神社遺跡	山林、社地	散布地	弥生		尾根上に塚状の高まりあり (6m四方)。
10	1302300 榎塚	道路	塚	近世	1984年度町発掘	径4m、高さ1.1m。
11	1303300 倉見トウノワキ遺跡	宅地、水田、社地	散布地	縄文、古墳、中世		
12	1311001 倉見オウラント遺跡	山林、道路	集落	縄文、弥生、平安	1998・99年度県(発掘)発掘	2ヶ所に分かれる。
13	1311002 倉見オウラント遺跡	山林、道路	集落	縄文、弥生、古墳	1998・99年度県(発掘)発掘	2ヶ所に分かれる。
14	1301800 竹俣サシシヅカ遺跡	山林	散布地	弥生、古代		
15	1301900 竹俣水谷遺跡	山林	散布地	縄文、弥生、古代	1984年度町発掘	
16	1302300 東荒原カシヤウラ遺跡	水田、畑地	散布地	古代		
17	1301600 七野ムカイヤマ遺跡	山林	散布地	弥生、古墳	1990年度町発掘	
18	1301700 七野墳墓群	山林	墳墓	弥生	1992～97年度町発掘	台状墓10基、四隅突出墳1基 (2号)、2～4号 墓は町指定史跡。
19	1302000 東荒原遺跡	水田	散布地	縄文、古墳、古代		磨製石斧、鏃、埴田土
20	1302100 旭山ガッコリ塚	山林	経塚	不詳		径7～8m、高さ1.2m。 円墳2基よりなる。 1号墳・2号墳とも径10m高 1.2m。
22	1300500 茂田古墳群	山林	古墳	古墳		
23	1302800 庄住古神社遺跡	山林	散布地	弥生		
24	1302900 五月田遺跡	水田	散布地	古代、中世		土師器、須恵器、珠洲焼
25	1304200 北中条遺跡	宅地	集落	縄文、弥生、古墳、 古代	2000～05年度町発掘	
26	1310500 北中条タケウラ遺跡	宅地	散布地	中世	2011年度試掘。	
27	1300300 南中条遺跡	宅地	散布地	縄文、古墳		打製石斧は単独出土。
28	1300400 南中条横穴	社地	横穴墓	古墳		板石で入口を覆う。
29	1304200 太田遺跡	宅地	散布地	古墳		
30	1303000 加茂遺跡	水田、道路	集落、寺院跡	弥生、古墳、古代、 中世	1991～94年度県(探検)、99～2011年度 県(発掘)発掘、58・72・2001～11町発掘 調査	加茂塚寺遺跡を含む。
31	1303400 加茂明神遺跡	山林	散布地	古墳		古墳の可能性もあり。
32	1311500 東荒原ナカサイ遺跡	山林	墳墓	弥生	1994・1995年度町発掘	鉄器・管玉・弥生土器出土。
33	1311600 杉瀬五月天彦の山遺跡	山林	集落跡	弥生	1996年度町発掘	

第1表 周辺の遺跡

明であるが、現況の水田や畑地にも須恵器・珠洲焼片等が散布している。登録されている範囲は隣接しているが、出土遺物の中心となる時代が異なる。1.5km西には、同じく遺物散布地である加賀爪遺跡(3)が旧津幡中学校校地内に存在する。

参考文献

津幡町史編纂委員会『津幡町史』1974

津幡町教育委員会『北中条遺跡(Ⅰ区)―北中条地区土地区画整理事業に係る発掘調査報告書―』2007

石川県教育委員会(財)石川県埋蔵文化財センター『津幡町加茂遺跡Ⅰ』2009

七野古墳発掘調査会『七野墳墓群発掘調査報告書』2010

津幡町教育委員会『加茂遺跡 詳細分布調査(第1～21調査区)発掘調査報告書』2012

第3章 調査の成果

第1節 調査概要

調査区は北東辺約35m、南西辺約26m、幅約13m、平面形態は台形状で、面積は460㎡である。調査前の現況では、調査区南西角から民家の建つ北西方向に向かって高くなっており、検出面までの高さは、南西角で約0.5m、北東角で1.0m、盛土されており、中に以前あった住宅や車庫の基礎が一部残っていた。また県教委文化財課の分布調査データでは、試掘坑の地点が誤って記載されていたため、表土除去の際、調査区中央部西で、標高7.3m付近を検出面とするところを0.5mほど掘りすぎている。本来、西へ向かって緩やかに下がっていたものと思われる。

調査区東半では、昭和40年代以前の津幡川の旧流路を検出した。分布調査データでは、2m以上下でも地山が検出されておらず、出土遺物も見られないことから、西岸ラインの検出のみとした。

調査区中央部付近で、平面形も底部の形状も不定形な灰白色粘質土の穴を検出し、SX1としたが、出土遺物もなく、人為的な掘削というより水脈などによる地山の変色の可能性が高い。

今回、調査の対象となる遺構として検出されたのは、調査区西側の河道(SD1)のみである。上面では主に中世・古代の遺物、中・下層では主に弥生時代後期の土器が出土した。底面付近の最下層では比較的遺存度の大きなものもあったが、上層から下層は小片で摩擦も著しいものがほとんどで、上流から流れてきたと推測される。

第2節 遺 構 (SD1)

検出面で幅5cm、深さ南側で0.9m、北側で1.4cm、南から北へ貫流する旧河道である。河道底は南から中央まで緩やかに、中央から北で傾斜が急になっている。おそらく調査区の北側に東西方向の大きな河道があり、それに合流する部分である可能性が考えられる。傾斜が急になった北側底面付近では、流木が北方向に落ち込むように堆積していた。

土層観察のためのアゼは中央に2箇所設けた。当初、南アゼのみであったが、全体に30～50cm掘り下げたところで、アゼを挟んで南側と北側で堆積状況にかなりの違いが感じられたためである。南側は黒褐色土に地山質の土がブロック状に入ったり、途中で薄い砂の層が縞状に見られたりするのに対し、北側はかなり深くまで黒褐色土が入り、さらに黒色を帯びるように見えた。底面近くまで掘り下げて判明したことであるが、北側の急傾斜のため、流れが保たれたのに対し、南側は比較的早い段階で、淀み状態になったため、堆積状況が異なったようである。なお、遺物観察表と計測表の地区名は、北アゼより北、北アゼと南アゼの中間、南アゼより南として、北・中・南とした。

検出面から黒色粘質土・黒褐色土の堆積を上層、その下で一部、暗褐色土、淡褐色土などが混じるやや淡い黒褐色土を中層とした。下層は灰色粘質土、さらに最下層は灰色粗砂となる。

上層は黒色粘質土が堆積し、地山由来の淡褐色粘質土10～15cm大のブロックが多く含まれる状況であった。土砂が堆積し、流れの少ない淀みになっていたようである。遺物は川の流れて攪拌されたため、岸付近の下層からも、時代の下る土器が少し出土しているが、おおむね上面や上層からは珠洲焼、古代の須恵器片が少量出土したほか、鉄滓が総重量25.9kg出土している。中・下層からは弥生時

代後期後半～終末期の土器が多く出土している。またごくわずかであるが、縄文土器片も出土している。

第3節 出土遺物

ほぼ全てがSD1からで、コンテナケース(内法54cm×34cm×20cm)で土器が10箱、鉄滓が3箱であった。図化したのは137点で、1～7が中世の陶器・土師器、8～16が古代の土器、17が古墳時代の須恵器、18～20が縄文土器片、21～128が弥生土器、129～135が碗形滓と輪の羽口、136、137が砥石である。

1～4は珠洲焼である。2は鉢で内面下部に沈線のような、おろし目状の調整が横方向に施される。5～7は土師器皿である。13世紀前半に属するものである。

8は土師器の鍋である。底部外面に静止糸切痕が残る。9は内面黒色の土師器碗の底部である。10～17は須恵器である。10は瓶類の底部である。11～16は8世紀後半から9世紀前半に属する。17は杯蓋と思われるが、6世紀後半～7世紀前半に属するものである。

18～20は縄文土器の小片である。18、19は外面に縄文が残り、20は深鉢の口縁部で外面に爪形文が施される。

弥生土器は21～36が中層、37～50が中～下層、51～84、が下層(黒褐色土、灰褐色土)、85～107が最下層(青灰砂)、108～128が層位なしである。弥生時代終末期の月形式土器の特徴が見られるものが多く、弥生時代後期後半の法仏式土器も少し見られる。

甕は擬凹線が施される有段口縁を持つものが多い。壺は同じく有段口縁を持つもののほか、長頸壺の頸部や胴部と思われる部位が出土している。

赤彩を施した土器は、壺類(23、26、30、108、113)と小型品(22)、高杯(27)がある。

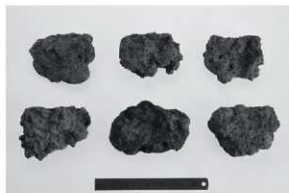
42は瓶、74は装飾器台の受部であるが、小片で摩耗が著しい。いずれも図示した1点のみである。また79の甕口縁部、91、92、124の壺口縁部は法仏期より古い要素が見られる。

106、115は甕形の小型土器である。

129、130は出土した中で大型の碗形滓、131～133は小型のものである。碗形滓は20点ほどがみとめられた。出土した鉄滓の全てを大きさで分類・計測し、(第5表)一部を写真で掲載した。総重量約26kgで、10cm以上(写真①)4.5kg、5cm以上10cm以下(写真②)11.9kg、3cm以上5cm以下(写真③)5.4kg、3cm以下(写真④)4.1kgとなった。

134、135は輪の羽口の破片で、いずれも小片である。注口部付近の外面に気泡の混じった溶着物が付着しており、重量感はない。図化した以外に2点出土している。

136、137は砥石である。いずれも小片で、欠損面以外の面は使用痕が残る。



①鉄滓 (10cm以上)



②鉄滓 (5cm以上10cm以下)



③鉄滓 (3cm以上5cm以下)



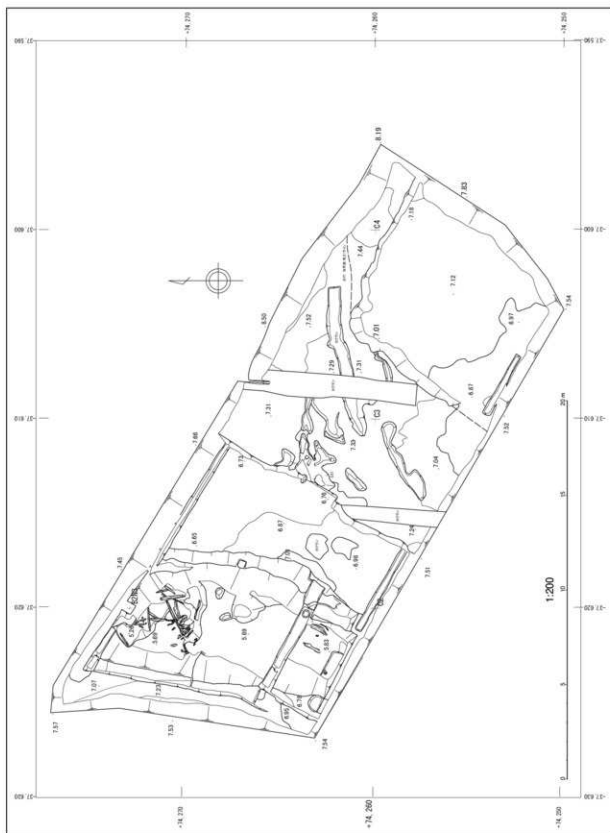
④鉄滓 (3cm以下)

第4節 小 結

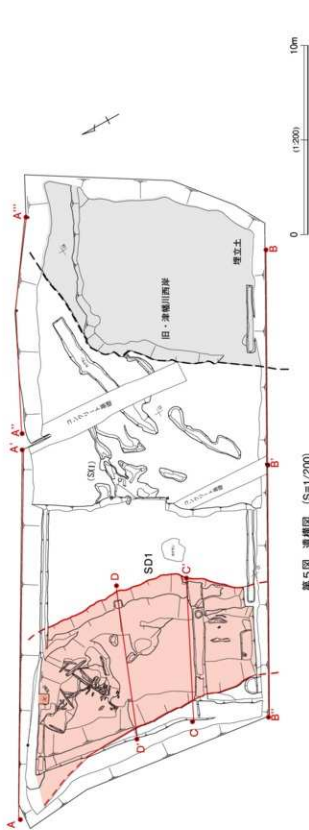
現在でも津幡川支流の倉見川が調査区の40m北側に存在しているが、今回検出したSD1も、北側に近接する本流に流れ込む支流である。調査区内では、SD1と出土土器以外、生活痕跡が見られるような遺構、遺物は検出されなかった。津幡川の流路の変化や河川改修、耕地整理などによる周辺の地盤の造成により、遺構が消滅した可能性も高いが、SD1出土の弥生土器は、摩耗の進んだ小片がほとんどであることから、調査区より南の上流の集落から流れこんだものが多いと思われる。

中・下層の弥生土器は、弥生時代後期～終末期に限定される。最も近い南側の集落遺跡としては、隣接する杉瀬ニシウラ遺跡がある。現況の畑地では、珠洲焼や須恵器の破片が散布しており、未調査である。ただし、弥生時代の遺物は採集されていない。出土量の少なかった奈良・平安時代、中世の土器は関連性が考えられるかもしれない。

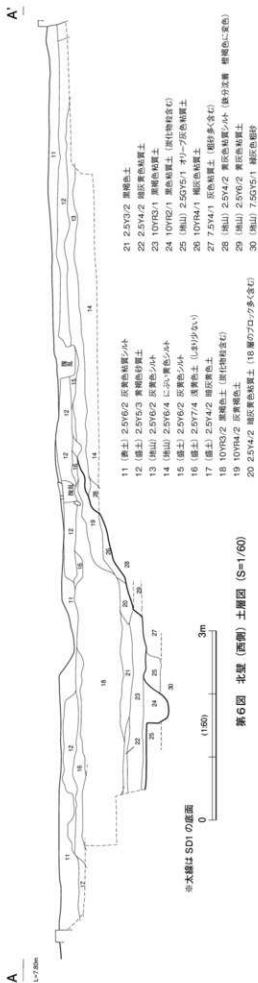
鉄滓や羽口に関しては、一部岸付近では下層として取り上げたものもあるが、ほとんどが上面、上層からの出土である。上流からの流入というより、SD1が淀み状態になった後のものと思われ、近隣で鍛冶など金属加工が行われ、廃棄場所となっていた可能性が考えられる。時期は、確証に欠けるが、特に上面から多く出土していることから、中世の可能性が高いのではないと思われる。



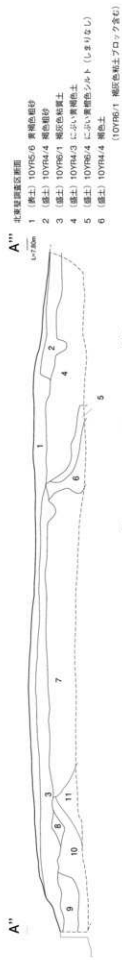
第4図 調査区平面図 (S 1/200)



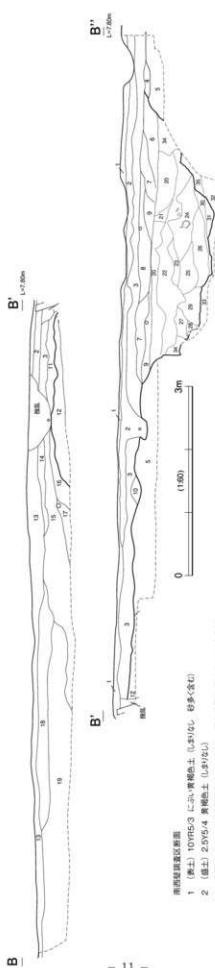
第5図 遺構図 (S=1/200)



第6図 北壁 (西側) 土層図 (S=1/60)



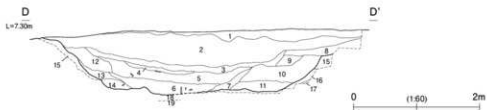
第7図 北壁(東側)土層図 (S=1/60)



第8図 南壁土層図 (S=1/60)

南壁調査区断面

- 1 (礫土) 10YR5/3 細かい黄褐色土 (しまりなし、砂多く含む)
- 2 (礫土) 2.5Y/4 黄褐色土 (L3Y/6/L)
- 3 (礫土) 2.5Y/2 暗灰黄色土 (2.5Y/2/1 黄褐色粘質土ブロック 1cm 犬首)
- 4 2.5Y/2 暗褐色粘質土
- 5 (堆土) 2.5Y/2 灰黄色シルト (鉄分多(沈着))
- 6 10YR4/2 灰黄褐色粘質土
- 7 10YR3/2 黄褐色粘質土
- 8 10YR3/3 暗褐色粘質土 (炭化物時含む)
- 9 10YR2/2 黄褐色粘質土
- 10 2.5Y/2 暗灰黄色粘土 (傾斜少 SK01 土層)
- 11 2.5Y/2 灰黄色粘質土
- 12 (堆土) 2.5Y/6 暗オリーブ褐色粘質土
- 13 (礫土) パラス沈着物
- 14 2.5Y/4 細かい黄褐色シルト
- 15 2.5Y/2 灰黄色粘質土
- 16 2.5Y/5/2 暗灰黄色粘質土 (1cm 木の 2.5Y/2 灰黄色粘土、2.5Y/4/1 黄灰黄色粘土ブロック含む、縁部減少し含む)
- 17 2.5Y/3 暗オリーブ褐色粘質土



第9図 SD1北アゼ土層図 (S=1/60)

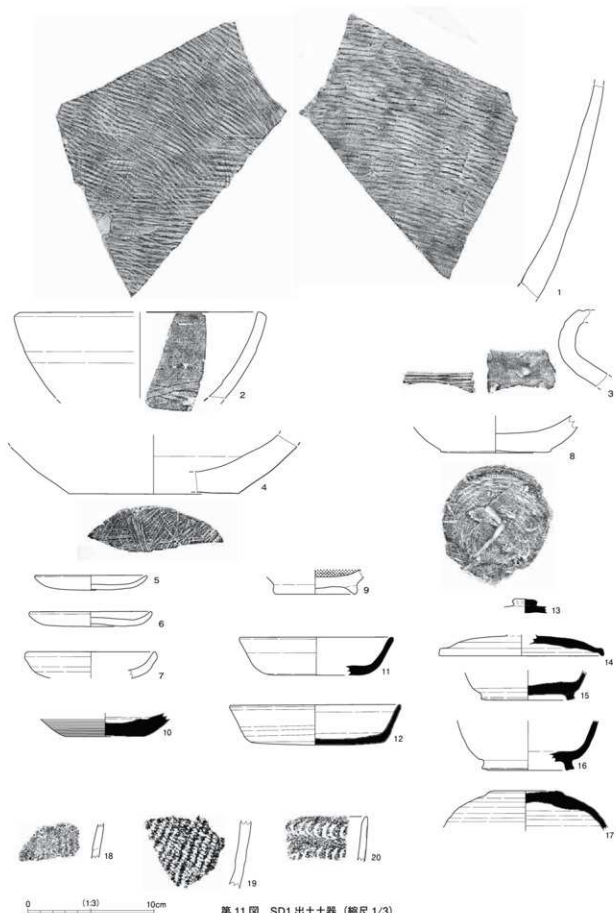
- 1 2.5Y5/3 に近い黄色シルト 盛土
- 2 10YR3/2 黒褐色土 (やや粘性あり) 土器小片 鉄滓 (多) 含む 濃差少
- 3 10YR2/2 黒褐色土 (2層より粘性強い) 土器小片 鉄滓含む 濃差少
- 4 10YR2/2 黒褐色土 (2層より粘性強い) 炭化物多く含む
- 5 10YR3/1 黒褐色土 (2.5Y4/1 黄灰色シルトブロック 2.5Y5/1 黄灰色粗砂含む)
- 6 5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 (2.5Y5/1 黄灰色粗砂多く含む)
- 7 2.5Y 黄灰色粗砂 (5層の3~5cm大ブロック 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土ブロック2~3cm大多く含む 鉄分沈着)
- 8 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 (粗砂含む)
- 9 10YR4/1 褐色土 (粗砂含む 10層の5~10cm大のブロック含む)
- 10 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (2.5Y3/1 黒褐色土の大粒径ブロック (5~15cm大) 含む)
- 11 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂 (鉄分沈着)
- 12 10YR4/2 灰黄褐色土
- 13 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (鉄分沈着多 7.5YR5/6 明褐色に変色)
- 14 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂 (植物腐食土塊状に入る 2.5Y5/1 黄灰色粘土ブロック5~10cm大入る)
- 15 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト (地山 鉄分沈着著しい 7.5Y3/6 明褐色に変色)
- 16 2.5Y6/2 灰黄色シルト (地山 鉄分沈着)
- 17 5GY6/1 オリーブ灰色粗砂 (地山)
- 18 2.5GY6/1 灰色粗砂
- 19 2.5GY6/1 灰色粘土 (地山)



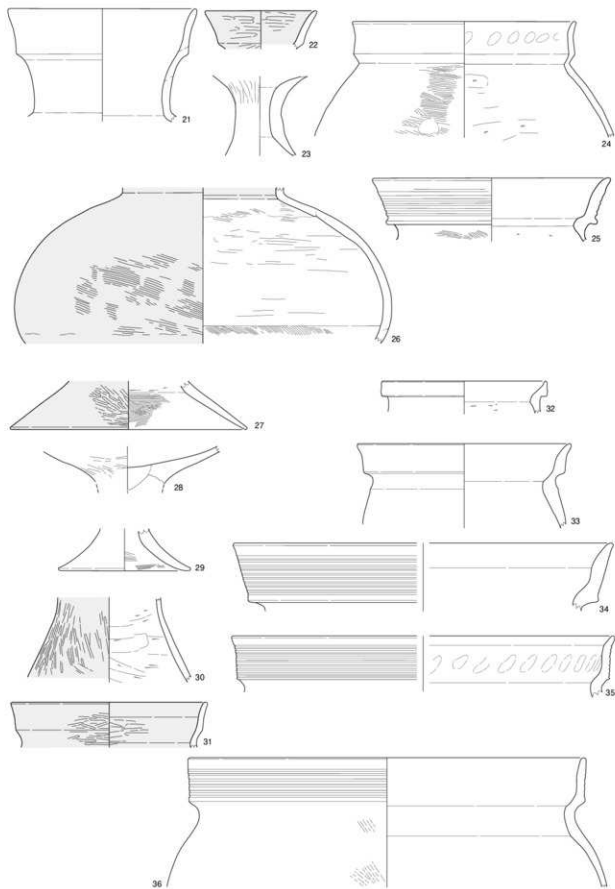
第10図 SD1南アゼ土層図 (S=1/60)

SD01南アゼ

- 1 (盛土) 2.5Y5/3 に近い黄色シルト
- 2 10YR3/3 暗褐色土
- 3 10YR3/4 暗褐色土 (10YR4/1 褐色土ブロック1~2cm大含む)
- 4 10YR2/3 黒褐色土 (炭化物粘含む)
- 5 10YR3/3 暗褐色土 (10YR2/3 黒褐色土ブロック3~5cm大、10YR4/4 褐色土ブロック1~2cm大、2.5Y5/2 暗灰黄色シルトブロック3~5cm大含む)
- 6 10YR3/2 黒褐色土
- 7 10YR4/2 灰黄褐色土
- 8 10YR3/3 暗褐色土 (2層と同質 砂多く含む)
- 9 10YR3/1 黒褐色土
- 10 10YR4/2 灰黄褐色土
- 11 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 (粗砂多く含む 2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック2~5cm大含む)
- 12 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土
- 13 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土
- 14 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 (2.5Y3/2 黒褐色土ブロック含む)
- 15 10YR4/3 に近い黄褐色粘質土
- 16 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 (粗砂塊状に入る)
- 17 10YR4/2 灰黄褐色粘質土
- 18 2.5Y5/1 褐色粘質土 (粗砂含む 鉄分沈着)
- 19 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 (土器なし)
- 20 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土 (粗砂多く含む)
- 21 10YR5/1 褐色土
- 22 10YR4/1 褐色土 (土器少ない 31層のブロック2~3cm大多く含む)
- 23 2.5Y6/2 灰黄色シルト (31層と同質 土器少ない)
- 24 10YR4/2 暗灰黄色土 (2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック3~7cm大多く含む)
- 25 2.5Y5/1 黄灰粘質土 (2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック3~7cm大多く含む)
- 26 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土
- 27 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 (粗砂塊状に入る)
- 28 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土 (粗砂塊状に入る)
- 29 2.5Y5/3 黄褐色粘質土 (粗砂多く含む)
- 30 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂 (植物腐食土塊状に入る)
- 31 2.5Y6/2 暗灰黄色シルト (2.5Y3/2 黒褐色土塊状 (馬の足状) に入る 地山質)
- 32 2.5Y6/2 灰黄色シルト (地山)
- 33 2.5Y6/1 黄灰色シルト (粗砂含む)
- 34 5Y5/2 灰オリーブ色粘 (植物腐食土塊状に入る)
- 35 2.5Y6/2 灰黄色シルト (粗砂含む 2.5Y3/2 黒褐色土5~10cmブロック含む 地山)
- 36 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土 (粗砂多く含む 2.5Y3/2 黒褐色土塊状に入る 地山)
- 37 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 (2.5Y8/2 灰白色粘土粒2cm大少し含む 地山)
- 38 2.5GY6/1 灰色シルト-粘土

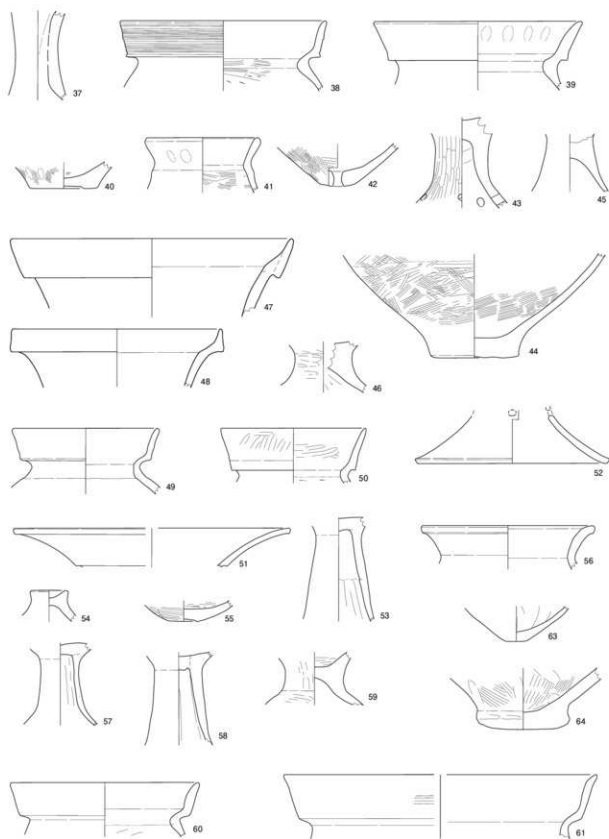


第11図 SD1出土土器 (縮尺 1/3)



第 12 图 SD1 出土土器 (缩尺 1/3)

0 (1:3) 10cm



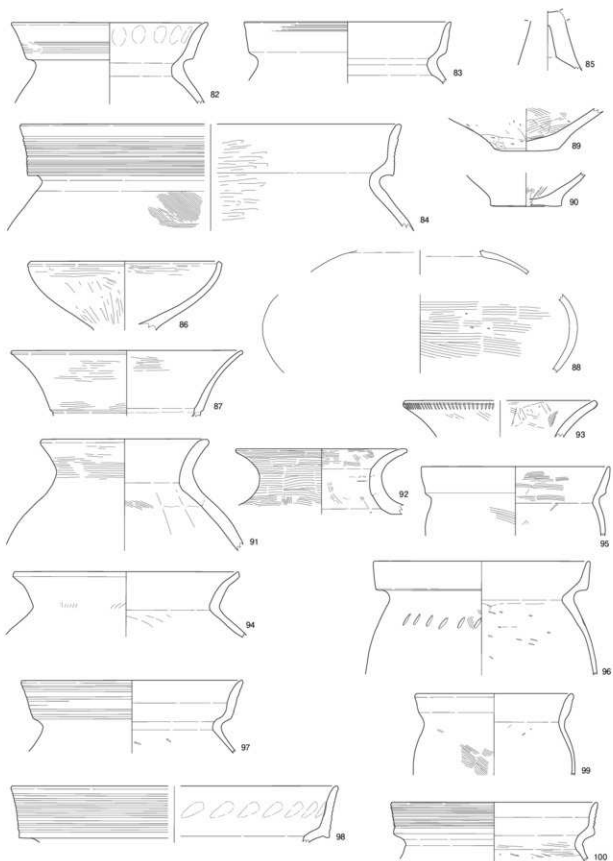
第13図 SD1出土土器 (縮尺 1/3)

0 (1:3) 10cm



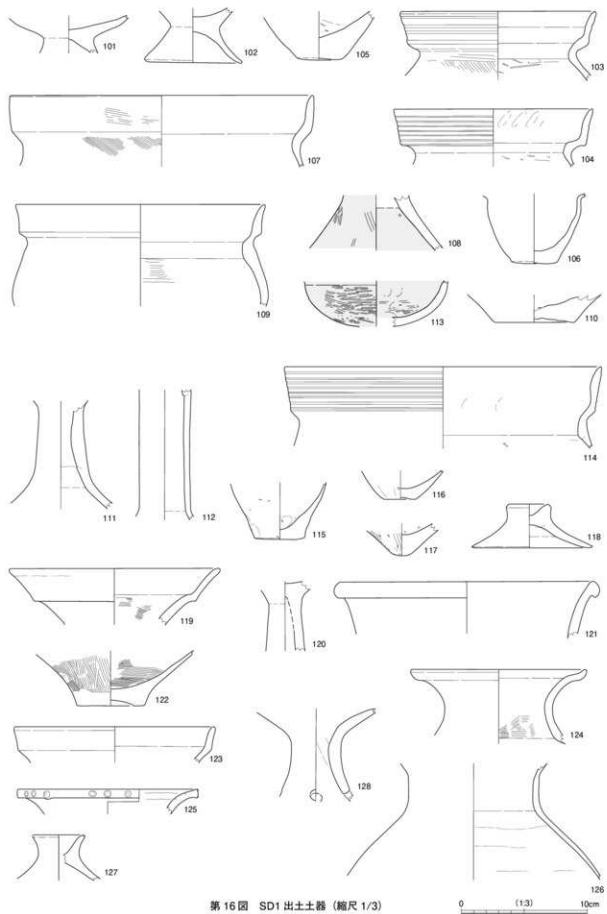
第 14 图 SD1 出土土器 (縮尺 1/3)

0 10cm 100cm



第15図 SD1 出土土器 (縮尺 1/3)

0 (1:3) 10cm



第16圖 SD1出土土器 (縮尺 1/3)



第17図 SD1出土楕円形・楕円口・砥石 (縮尺 1/3) 0 (1/3) 10cm

第2表 SD1出土土器観察表

番号	原所番号	地区	出土地点	種類	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	遺存数	備考		
1	0003		土層	珠洲焼	甕	—	—	(17.0)	5Y6/1 灰	5Y4/1 灰	破砕 粗砂少	体底小片		
2	0086		黒褐色土層	珠洲焼	鉢 (187)	—	—	(6.9)	N5/ 灰	N5/ 灰	粗砂少 赤色粒	口縁1/123下	内面へウ缺あり	
3	0002		黒褐色土層	珠洲焼	鉢	—	—	(6.1)	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	粗砂 粗砂多	口縁5/12		
4	0001		黒褐色土層	珠洲焼	鉢	—	—	(13.5)	(4.7) N6/ 灰	N5/ 灰	粗砂少	底底3/12		
5	0086		黒褐色土層	土器焼	皿 (88)	—	—	1.2	10Y87/3 に灰-黄	10Y87/4 に灰-黄	粗砂少 赤色粒	口縁2/12	内外面摩耗	
6	0053		黒褐色土層	土器焼	皿 (96)	(7.2)	1.2	10Y87/3 に灰-黄	10Y87/2 に灰-黄	粗砂少 赤色粒	口縁2/12			
7	0097		黒褐色土層	土器焼	皿 (100)	—	—	(2.1)	10Y88/3 黄灰	10Y88/3 黄灰	粗砂少 赤色粒	口縁1/12		
8	0031		黒褐色土層-灰色粗砂	土器焼	有台皿	—	—	(8.8)	(2.0) 10Y84/1 期灰	10Y87/3 に灰-黄	粗砂 粗砂多 赤色粒	底底1/2	底面縁部未切取	
9	0072		北之ヶ岡以下	土器焼	有台皿	—	—	(6.3)	(2.0) 10Y83/1 期灰	10Y86/3 に灰-黄	粗砂 粗砂少	底底10/12	内底	
10	0118		黒褐色土層	土器焼	瓶(底部)	—	—	(6.4)	(1.9) 10Y86/1 期灰	10Y86/1 期灰	粗砂 粗砂多	底底5/12		
11	0005		黒褐色土層	粗器器	無台杯 (120)	(8.0)	(8.0)	3.05	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	粗砂少	口縁1/123下 底底3/12		
12	0008		黒褐色土層-灰色粗砂	粗器器	無台杯	133	106	3.25	10Y85/2 灰黄	10Y85/2 灰黄	粗砂 粗砂多	口縁6/12 底底11/12		
13	0083		黒褐色土層	粗器器	蓋	—	—	ウ缺縁 (20)	(1.2) 5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	粗砂少	つまみ底10/12		
14	0007		黒褐色土層	粗器器	蓋 (130)	—	—	(1.7)	10Y6/1 灰	10Y6/1 灰	粗砂 粗砂少	口縁小片		
15	0004		黒褐色土層	粗器器	有台杯	—	—	7.4	(2.4) 10Y85/1 期灰	10Y86/1 期灰	粗砂 粗砂多	底底11/12	外面全体に障灰	
16	0006		黒褐色土層	粗器器	有台杯	—	—	(6.1)	(3.95) 2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	粗砂 粗砂多	底底3/12		
17	0011		灰色粗砂おろこみ	粗器器	蓋	—	—	(3.2)	N6/ 灰	N4/ 灰	粗砂多 赤色粒	底底6/12	外面全体に自然積 塊 3.5以上あり	
18	0091		黒褐色土層	縄文	深鉢	—	—	(2.8)	10Y85/2 灰黄	10Y84/2 灰黄	粗砂 粗砂多	底底多	小片	
19	0010		灰色粗砂	縄文	深鉢	—	—	(5.4)	10Y85/3 に灰-黄	10Y85/2 に灰-黄	粗砂 粗砂多	底底小片		
20	0009		灰色粗砂	縄文	深鉢小	—	—	(3.6)	10Y84/2 灰黄	2.5Y82/3 黒	粗砂多 粗砂多	口縁小片	爪痕	
21	0015		土層上層	弥生	壺 (147)	—	—	(9.0)	10Y84/1 期灰	10Y84/1 期灰	粗砂 粗砂多	口縁1/12		
22	0127		南アサヒ層	弥生	壺小 (87)	—	—	(3.1)	2.5Y84/6 赤黒	2.5Y84/6 赤黒	砂粒含まず	口縁2/12	内外面摩耗	
23	0017		黒褐色土層	弥生	壺台	—	—	(6.4)	5Y87/6 橙	2.5Y86/6 橙	粗砂 粗砂多 赤色粒	底底12/12		
24	0018		黒褐色土層	弥生	壺 (173)	—	—	(9.3)	10Y87/3 に灰-黄	10Y87/3 に灰-黄	粗砂 粗砂多	口縁2/12		
25	0084		黒褐色土層	弥生	壺 (186)	—	—	(5.1)	10Y87/3 に灰-黄	10Y86/2 灰黄	粗砂多 赤色粒	口縁4/12	外面ス付着	
26	0019		黒褐色土層	弥生	壺	—	—	(12.4)	10Y87/4 に灰-黄	10Y87/4 に灰-黄	粗砂 粗砂多	底底1/12	外面全体 内面一部未切	
27	0060		南中層	弥生	高杯	—	—	(18.6)	(3.85) 10Y88/2 灰白	10R5/6 赤	粗砂少	底底小片	外面赤	
28	0062		南中層	弥生	高杯	—	—	(2.4)	5Y86/8 橙	10Y87/4 に灰-黄	粗砂 粗砂多 赤色粒	小片		
29	0059		南中層	弥生	高杯(底部)	—	—	(10.1)	(3.4)	10Y87/4 に灰-黄	2.5Y87/4 に灰-黄	粗砂 粗砂多	底底3/12	
30	0074		南中層	弥生	台付壺	—	—	(6.8)	10Y87/3 に灰-黄	10R6/4 に灰-黄	粗砂 粗砂多	小片	外面赤	
31	0073		南中層	弥生	壺 (154)	—	—	(3.6)	10R5/6 赤 (赤砂 2.5Y87/3 に灰-黄)	10R5/6 赤	粗砂多 粗砂多	口縁小片	内外面赤	
32	0116		南中層	弥生	壺 (129)	—	—	(2.6)	10Y86/3 に灰-黄	10Y85/3 に灰-黄	粗砂少	口縁1/12	外面ス付着	
33	0117		南中層	弥生	壺 (168)	—	—	(6.7)	2.5Y87/6 橙	2.5Y86/8 橙	粗砂 粗砂多 赤色粒	口縁2/12		
34	0088		南中層	弥生	壺 (200)	—	—	(5.4)	10Y88/3 黄灰	10Y85/3 に灰-黄	粗砂多 粗砂多	口縁1/12	脚門部10赤	
35	0119		南中層	弥生	壺 (303)	—	—	(4.9)	10Y87/3 に灰-黄	10Y87/3 に灰-黄	粗砂 粗砂多 赤色粒	口縁小片	外面ス付着 脚門部赤	
36	0012		南中層	弥生	壺 (313)	—	—	(10.3)	10Y88/4 黄灰	10Y87/4 に灰-黄	粗砂 粗砂多	口縁4/12	外面ス付着 脚門部赤	
37	0053		東中層-下層	弥生	壺台	—	—	(7.1)	5Y87/1 期灰	5Y87/4 に灰-黄	粗砂多 粗砂多 赤色粒	小片		
38	0054		東中層-下層	弥生	壺 (162)	—	—	(5.6)	10Y87/2 に灰-黄	10Y86/2 灰黄	粗砂 粗砂多	口縁小片	脚門部10赤	
39	0092		東中層-下層	弥生	壺 (162)	—	—	(5.5)	10Y88/2 灰白	2.5Y85/1 黄灰 2.5Y7/1 灰白	粗砂 粗砂多 赤色粒	口縁2/12		
40	0120		東中層-下層	弥生	壺	—	—	5.4	(2.1) 10Y88/3 黄灰	10Y87/2 に灰-黄	粗砂多 粗砂多	底底5/12		
41	0082		東中層-下層	弥生	小壺 (88)	—	—	(4.4)	10Y88/3 黄灰	10Y88/2 灰白	粗砂 粗砂多 赤色粒	口縁2/12		
42	0058		東中層-下層	弥生	瓶	—	—	(2.7)	2.5Y87/3 に灰-黄	2.5Y87/3 に灰-黄	粗砂 粗砂多	底底1/12 足部	孔あり	
43	0021		東中層-下層	弥生	高杯	—	—	(7.2)	10Y87/3 に灰-黄	10Y87/3 に灰-黄	粗砂少 粗砂多 赤色粒	小片	孔あり	
44	0020		東中層-下層	弥生	壺	—	—	(7.0)	(8.3) 10Y87/3 に灰-黄	10Y87/3 に灰-黄	粗砂 粗砂多 赤色粒	底底6/12		
45	0079		南アサヒ層	弥生	高杯(小片)	—	—	(4.6)	2.5Y87/3 に灰-黄	10Y85/1 灰	粗砂少 赤色粒	小片		
46	0110		南アサヒ層	弥生	高杯(小片)	—	—	(4.1)	10Y87/3 に灰-黄	10Y87/3 に灰-黄	粗砂多 粗砂多	小片		
47	0039		南アサヒ層	弥生	壺 (221)	—	—	(6.3)	2.5Y86/4 に灰-黄	2.5Y86/4 に灰-黄	粗砂 粗砂少 赤色粒	口縁2/12		
48	0041		南アサヒ層	弥生	壺小 (164)	—	—	(4.6)	10Y87/3 に灰-黄	10Y87/3 に灰-黄	粗砂 粗砂少 赤色粒	口縁1/12	内外面内磨	
49	0038		南アサヒ層	弥生	壺(要蓋)	(114)	—	(5.3)	2.5Y86/4 に灰-黄	2.5Y86/4 に灰-黄	粗砂少	底底6/12		
50	0040		南アサヒ層	弥生	壺 (114)	—	—	(4.2)	10Y87/3 に灰-黄	10Y87/3 に灰-黄	粗砂 粗砂少	口縁9/12		
51	0124		黒褐色土層	弥生	高杯 (218)	—	—	(3.1)	10Y88/3 黄灰	10Y88/3 黄灰	粗砂 粗砂多	口縁1/12	内外面摩耗	
52	0087		黒褐色土層	弥生	高杯 (150)	—	—	(3.8)	10Y87/3 に灰-黄	10Y87/2 に灰-黄	粗砂多 粗砂多	底底3/12	内外面摩耗	
53	0099		黒褐色土層(灰褐色)	弥生	高杯	—	—	(8.3)	10Y87/3 に灰-黄	10Y87/3 に灰-黄	粗砂多 赤色粒	底底12/12	内外面摩耗	
54	0098		黒褐色土層(灰褐色)	弥生	蓋	—	—	(2.5)	2.5Y8/3 黄	2.5Y8/3 黄	粗砂 粗砂多	つまみ底6/12	内外面赤	
55	0063		黒褐色土層-灰色粗砂	弥生	壺	—	—	2.4	(1.7) 10Y87/3 に灰-黄	5Y2/1 灰	粗砂 粗砂多 赤色粒	底底12/12		
56	0106		黒褐色土層	弥生	壺 (136)	—	—	(3.5)	10Y87/2 に灰-黄	10Y87/2 に灰-黄	粗砂 粗砂多	口縁5/12	内外面摩耗	
57	0064		赤色土層-灰色粗砂	弥生	高杯	—	—	(6.6)	5Y86/6 橙	5Y86/8 橙	粗砂 粗砂多	底底12/12	内外面摩耗	
58	0043		北アサヒ層	弥生	高杯	—	—	(7.4)	10Y87/3 に灰-黄	2.5Y87/4 に灰-黄	赤色粒	脚底12/12		
59	0111		北アサヒ層	弥生	高杯(小片)	—	—	(4.3)	10Y86/3 に灰-黄	10Y86/3 に灰-黄	粗砂小片	脚底小片	内外面摩耗	
60	0044		北アサヒ層	弥生	壺 (148)	—	—	(4.3)	10Y86/3 に灰-黄	10Y85/2 黄	粗砂 粗砂多	口縁2/12		
61	0123		北アサヒ層	弥生	壺 (248)	—	—	(5.1)	2.5Y86/4 に灰-黄	2.5Y86/4 に灰-黄	粗砂 粗砂多	口縁2/12		
62	0126		北アサヒ層	弥生	壺 (278)	—	—	(5.7)	2.5Y87/4 に灰-黄	2.5Y87/4 に灰-黄	粗砂 粗砂多	口縁2/12		
63	0046		北アサヒ層	弥生	壺	—	—	1.6	(2.8) 2.5Y85/4 に灰-黄	5Y86/4 に灰-黄	粗砂 粗砂多	底底12/12	外面ス付着	
64	0042		北アサヒ層	弥生	壺小	—	—	7.4	(4.9) 10Y83/1 期灰	10Y83/1 期灰	粗砂多 粗砂多	底底11/12		
65	0107		東中層-下層	弥生	壺 (159)	—	—	(4.5)	10Y87/3 に灰-黄	10Y87/4 に灰-黄	粗砂 粗砂多	口縁1/12		
66	0035		東中層-下層	弥生	壺 (154)	—	—	(7.7)	10Y88/3 黄灰	10Y87/3 に灰-黄	粗砂 粗砂多 赤色粒	口縁2/12	外面ス付着	

標 本 番 号	採 取 地 区	出 土 地 点	種類	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器 高 (cm)	色 調	胎土	遺 存 度	備 考		
67-0034	中	下層稲区シロト	甕	甕	(128)	—	3.2	75YR6/1 焼灰	75YR6/1 焼灰 75YR8/4 浅黄緑	粗砂少	口縁6/12		
68-0020	中	下層稲区シロト	甕	甕	(184)	—	6.2	5YR7/6 橙	5YR6/6 橙	粗砂多 赤色粒少	口縁6/12	内外面摩耗、泥漕	
69-0033	中	灰色色相質土	甕	高杯	—	(140)	(127)	5YR5/4 に灰黄	25Y5/2 焼灰黄	粗砂少 粗砂少	底面2/12		
70-0025	南	下層	甕	高杯	—	—	8.3	75YR7/4 に灰黄	10YR2/3 に灰黄	粗砂多 赤色粒	小片	孔3穴あり	
71-0027	南	下層	甕	高杯	—	—	7.80	10YR7/2 に灰黄	10YR2/3 に灰黄	粗砂多 赤色粒 小片	小片	孔3穴あり	
72-0061	南	下層	甕	高杯	—	—	(135)	25Y8/3 浅黄	25Y8/3 浅黄	粗砂多 赤色粒	小片	内外一部土付着	
73-0122	南	下層	甕	高杯	—	—	(47)	25Y8/2 浅黄	25Y5/2 焼灰黄	粗砂少	小片	内外一部土付着 孔4穴あり	
74-0060	南	下層	甕	高杯	—	—	(19)	25Y8/3 浅黄	25Y8/3 浅黄	粗砂多 赤色粒	小片	底面赤土、体面孔3穴あり	
75-0121	南	下層	甕	甕	(145)	—	(58)	10YR7/2 に灰黄	10YR5/2 浅黄緑	粗砂多 粗砂多	口縁1/12	外周土付着	
76-0024	南	下層	甕	甕	(207)	—	(10)	10YR7/2 に灰黄	5YR7/4 に灰黄	粗砂多 赤色粒	口縁5/12	全体に摩耗、内面泥漕	
77-0048	南	アビノ層	甕	甕	(62)	(21)	10YR5/1 焼灰	10YR5/1 焼灰	粗砂多 赤色粒	底面7/12			
78-0103	南	下層	甕	鉢	(197)	—	(37)	10B5/1-2 5YR5/3 赤土に灰黄	25YR5/3 に灰黄	粗砂少 赤色粒	口縁1/12		
79-0036	南	下層	甕	甕	(184)	—	6.3	25Y8/3 浅黄	10YR2/1 黒	粗砂多 粗砂多	口縁1/12	外周土付着	
80-0075	南	下層	甕	甕	(200)	—	8.90	75YR7/3 に灰黄	75YR7/3 に灰黄	粗砂多 赤色粒	口縁1/12	外周土付着	
81-0076	南	下層	甕	甕	(243)	—	6.50	25YR4/4 に灰黄	75YR7/3 に灰黄	粗砂多 赤色粒	口縁1/12		
82-0077	南	下層	甕	甕	(154)	—	6.50	25Y8/2 灰白	10YR6/2 灰黄緑	粗砂多 粗砂多	口縁2/12	内外面泥漕、てい	
83-0096	南	下層	甕	甕	(162)	—	(49)	75YR7/4 に灰黄	5YR6/4 に灰黄	粗砂多 赤色粒	口縁2/12		
84-0056	南	下層	甕	甕	(300)	—	(85)	10YR7/3 に灰黄	10YR2/3 に灰黄	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多 赤色粒少	口縁4/12	外周一部土付着	
85-0112	北	灰色粗砂	甕	高杯	—	—	(47)	10YR7/2 に灰黄	10YR7/2 に灰黄	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多	口縁2/12		
86-0032	北	灰色粗砂	甕	高杯	(149)	—	(55)	10YR6/4 に灰黄	10YR7/4 に灰黄	粗砂 粗砂多	口縁5/12	内外面に緑泥土付着	
87-0066	北	灰色粗砂	甕	高杯	(182)	—	(52)	10YR7/2 に灰黄	10YR7/2 に灰黄	粗砂 粗砂少	口縁1/12		
88-0089	北	灰色粗砂	甕	甕	(178)	—	(97)	25Y4/1 黄灰	75YR7/4 に灰黄	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多 焼土塊多	体底2/12		
89-0065	北	灰色粗砂	甕	甕	(178)	—	(50)	10YR7/1 灰白	10YR7/2 に灰黄	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多 焼土塊多	口縁10/12	底面凹部 黒泥	
90-0113	北	灰色粗砂	甕	甕	(156)	—	(27)	10YR7/2 に灰黄	10YR8/2 灰白	粗砂少 粗砂少	底面10/12		
91-0022	北	灰色粗砂	甕	甕	(132)	—	(89)	10YR7/2 に灰黄	10YR7/3 に灰黄	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多 赤色粒少	口縁7/12	内外面摩耗	
92-0023	北	東部下層(灰色粗砂)	甕	甕	(156)	—	(52)	10YR7/3 に灰黄	10YR7/3 に灰黄	粗砂 粗砂少	口縁3/12	口縁部泥漕	
93-0123	北	灰色粗砂	甕	甕	(150)	—	(29)	10YR7/3 に灰黄	10YR2/3 に灰黄	粗砂少 粗砂多 粗砂多 粗砂多	口縁2/12		
94-0080	北	灰色粗砂	甕	甕	(178)	—	(52)	10YR7/3 に灰黄	10YR7/4 に灰黄	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多 焼土塊多	口縁2/12		
95-0115	北	灰色粗砂	甕	甕	(148)	—	(55)	10YR7/2 に灰黄	10YR8/2 灰白	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多 焼土塊多	口縁1/12		
96-0067	北	灰色粗砂	甕	甕	(170)	—	(91)	75R7/3 に灰黄	10YR7/3 に灰黄	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多 焼土塊多	口縁1/12		
97-0104	北	灰色粗砂	甕	甕	(175)	—	(58)	75R8/2 灰白	10YR8/2 灰白	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多 焼土塊多	口縁4/12	底面凹部	
98-0114	北	灰色粗砂	甕	甕	(258)	—	(45)	10YR7/2 に灰黄	10YR7/2 に灰黄	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多 焼土塊多	口縁1/12,13,17	内外面凹部	
99-0105	北	東部灰色粗砂	甕	甕	(122)	—	(65)	75R7/3 に灰黄	75R6/2 灰黄	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多 焼土塊多	口縁2/12	外周土付着	
100-0016	北	東部灰色粗砂	甕	甕	(162)	—	(47)	10YR7/3 に灰黄	10YR7/3 に灰黄	粗砂 粗砂多	口縁4/12	外周一部土付着 筒内面赤	
101-0029	中	灰色粗砂おろこみ	甕	器台高杯	—	—	(30)	10YR7/3 に灰黄	10YR6/3 に灰黄	粗砂 粗砂多	小片	内外面泥漕	
102-0030	中	灰色粗砂おろこみ	甕	台盤	—	—	7.6	5YR6/4 に灰黄 10YR6/4 に灰黄	25YR6/4 に灰黄	粗砂少 粗砂多 粗砂多 赤色粒少	口縁11/12	内外面摩耗	
103-0068	中	灰色粗砂おろこみ	甕	甕	(154)	—	(55)	10YR7/3 に灰黄	10YR7/3 に灰黄	粗砂少 粗砂多 粗砂多 赤色粒少	口縁2/12	外周一部土付着	
104-0093	中	灰色粗砂おろこみ	甕	甕	(158)	—	(46)	10YR6/3 に灰黄	10YR6/3 に灰黄	粗砂 粗砂多	口縁1/12	内外面泥漕、底面凹部	
105-0069	中	灰色粗砂おろこみ	甕	甕	—	—	37	10YR6/2 灰黄緑	10YR6/3 に灰黄	粗砂少 粗砂多 粗砂多 粗砂多 赤色粒少	底面2/12	内外面摩耗	
106-0028	中	灰色粗砂おろこみ	甕	小型土盤	—	—	3.6	25Y4/1 黄灰	25Y4/1 黄灰	粗砂多 赤色粒少	底面2/12	底面 内外面泥漕	
107-0125	中	灰色粗砂おろこみ	甕	甕	(299)	—	(57)	10YR7/3 に灰黄	10YR7/2 に灰黄	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多 赤色粒少	口縁1/12	内外面泥漕	
108-0055	北	中ノアビノ層	甕	器台高杯	—	—	(44)	75YR7/2 に灰黄+赤	10B5/4 赤(赤)	粗砂 粗砂多	底面3/12	内外面赤	
109-0045	中	北ノアビノ層	甕	甕	(196)	—	(81)	10YR4/1 焼灰	5YR6/4 に灰黄	粗砂 粗砂多 粗砂多 赤色粒	口縁1/12	内外面赤	
110-0108	南	南塚深層	甕	甕	(164)	—	(23)	10YR8/3 浅黄緑	25Y7/3 浅黄	粗砂多 粗砂多	底面6/12		
111-0057	南	南塚深層	甕	甕	—	—	(86)	75YR7/4 に灰黄	5YR6/4 に灰黄	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多 赤色粒少	口縁2/12	内外面赤	
112-0078	南	南塚深層	甕	高杯	—	—	(104)	25B6/8 橙	25B6/8 橙	粗砂 粗砂少	口縁2/12		
113-0102	南	南塚深層	甕	甕	—	—	(34)	10B6/6 赤(赤)	10B6/6 赤(赤)	粗砂多 粗砂多	—	内外面赤	
114-0081	南	南塚深層	甕	甕	(250)	—	(65)	75YR7/4 に灰黄	75YR7/4 に灰黄	粗砂多 粗砂多	口縁1/12,13,17	口縁付一部に土付着 筒内面赤	
115-0013	南	南塚深層	甕	甕	—	—	4.0	(45)	10YR8/2 灰白	75YR7/4 に灰黄	白土の粗砂多 粗砂多	底面2/12	
116-0080	南	南塚深層	甕	甕	—	—	2.5	(23)	10YR7/2 に灰黄	10YR8/2 灰白	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多	底面2/12	
117-0101	南	南塚深層	甕	鉢	—	—	1.4	(26)	10YR8/2 灰白	10YR7/2 に灰黄	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多 焼土塊多	底面2/12	
118-0014	南	南塚深層	甕	甕	(48)	—	—	3.5	10YR8/3 浅黄緑	10YR8/4 浅黄緑	粗砂 粗砂多	口縁6/12 口縁2/12	つまみ様(3.1)
119-0049	南	アビノ深層	甕	器台	(163)	—	(45)	25Y6/1 黄灰	25Y5/1 黄灰	粗砂多	口縁1/12		
120-0047	南	アビノ深層	甕	甕	—	—	(56)	25YR6/6 橙	75YR6/6 橙	粗砂多 粗砂多	小片	内外面赤	
121-0037	南	アビノ深層	甕	甕	(200)	—	(46)	5YR6/4 に灰黄	5YR6/4 に灰黄	粗砂少 粗砂多	口縁2/12		
122-0036	南	南塚深層	甕	甕	—	—	5.3	(44)	25YR5/1 黄灰 10YR8/4 浅黄緑	25Y3/1 黒 10YR8/4 浅黄緑	粗砂多 粗砂多	底面2/12	外周土付着
123-0109	南	南塚深層	甕	甕	(158)	—	(29)	10YR8/4 浅黄緑	10YR8/4 浅黄緑	粗砂多 粗砂多	口縁2/12		
124-0094	南	南塚深層	甕	甕	(136)	—	(60)	10YR5/2 灰黄緑	75YR5/3 に灰黄	粗砂多 粗砂多	口縁2/12		
125-0095	南	南塚深層	甕	甕	(142)	—	(20)	10YR6/3 に灰黄	10YR4/2 灰黄緑	粗砂多 粗砂多 粗砂多 粗砂多	口縁1/12	浮き土付着(小片赤土) 内外面に土塊	
126-0052	南	南塚深層	甕	甕	—	—	(90)	10YR5/2 灰黄緑	75YR6/4 に灰黄	粗砂少 粗砂多	—	内外面赤	
127-0100	南	西側方付遺	甕	甕	—	—	(39)	25YR6/6 に灰黄	25YR6/6 に灰黄	粗砂 粗砂多	口縁5/12	つまみ様(2.0)	
128-0071	中	中層埋土	甕	器台	—	—	(64)	75YR8/6 浅黄緑	75YR7/4 に灰黄	粗砂少 粗砂多	—	内外面赤、孔4穴あり	

第3表 SD1鉄滓観察表

資料管理番号	地区	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量[g]	
129	0131	北	北アゼ5～6層	鏡形鉄滓	10.15	7.55	5.4	441.8
130	0132	北	東岸灰褐色土	鏡形鉄滓	11.1	9.45	4.5	361.3
131	0133	北	黒褐色土下層～青灰砂層	鏡形鉄滓	6.65	5.9	2.5	60.4
132	0134	北		鏡形鉄滓	7.1	4.8	2.6	79.0
133	0135	南	南アゼ中層	鏡形鉄滓	5.75	5.0	3.0	128.5

第4表 SD1編羽口観察表

資料管理番号	地区	出土地点	器種	外径(cm)	内径(cm)	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)	重量[g]	遺存状況	
134	0136	中	青灰砂おろし木	輪の目口	推定(6.5)	推定(2.3)	6(2.5)	(6.75)	(3.7)	(111.6)	1/1231下
135	0137	北	黒色土下層～青灰砂	輪の目口	推定(5.4)	推定(3.0)	(4.45)	(4.5)	(2.2)	(27.8)	1/1231下

第5表 SD1砥石観察表

資料管理番号	地区	出土地点	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量[g]	
136	0129	北	SD1	砥石	11.51	12.45	13.61	113.8
137	0130	北	SD1	砥石	18.61	14.11	12.71	119.0

第6表 SD1鉄滓計測表

No	地区	出土地点	重量[g]				計[g]	実測番号	備考
			30cm以上	5-10cm	3-5cm	3cm以下			
1	北	—	—	—	—	10	10		
2	北	—	—	—	—	4.9	4.9		
3	北	—	82.8	—	—	89	171.8		
4	北	—	—	—	—	6.7	6.7		
5	北	178.1	1308.4	1030.1	590.1	3106.7	132	鏡形滓1 写真①②③	
6	北	—	974.8	833.3	627.2	2435.3	—	鏡形滓1 写真④	
7	北	—	235.7	21.1	138.4	395.2	—	鏡形滓1	
8	北	黒褐色土	—	457	248.9	207.5	1013.4	鏡形滓1※	
9	北	黒褐色土	439.3	716.4	100.4	145.4	1401.5	鏡形滓3 写真①	
10	北	黒褐色土下層	—	463.3	229	205.6	897.9	鏡形滓1	
11	北	黒褐色土下層	—	195.6	105.3	190.7	541.6		
12	北	黒褐色土下層	—	—	17.4	—	17.4		
13	北	黒褐色土下層-灰褐色土	—	—	—	3	3		
14	北	黒褐色土下層-青灰砂層	—	61.5	—	—	61.5	131	鏡形滓
15	北	東岸灰褐色土	362.5	—	—	—	362.5	130	鏡形滓
16	北	青灰砂	—	—	—	7.6	7.6		
17	北	北アゼ5、6層	442.7	—	—	—	442.7	129	鏡形滓1
18	北	北アゼ6層	—	—	—	4.4	4.4		
19	北	北岸深掘	—	77.3	—	7.8	85.1		
20	北	北アゼ2、4層	332	—	58.6	—	390.6		
21	北	カクタン含む	—	1988.7	714.2	515.7	2218.6		
22	中	—	315.6	73.7	351.9	129.1	870.3	鏡形滓※1	
23	中	250.9	1079.2	387.4	355.1	3072.6	—	鏡形滓※1 鏡形滓1	
24	中	土層	—	—	—	65.5	65.5		
25	中	—	—	—	—	64.8	64.8		
26	中	下層	—	—	24.2	—	24.2		
27	中	黒褐色土	—	1282.9	212.5	88.3	1583.7	鏡形滓3	
28	中	黒褐色土	—	—	—	45.2	45.2		
29	中	黒褐色土	—	240.1	105.3	17.9	363.3		
30	中	橙褐色土層より下	—	—	17.3	19.9	37.2		
31	中	下層橙褐色土層より下	—	161	36.9	—	197.9		
32	中	(東岸付)灰褐色粘質土	—	—	30.5	—	30.5		
33	中	(東岸付)灰褐色土	—	—	12.8	—	12.8		
34	中	黒褐色土上～下層	—	169.5	97	—	266.5		
35	南	—	350.9	577.1	61.8	43.3	1033.1	鏡形滓1	
36	南	—	—	242.3	85.5	15.2	343		
37	南	—	—	677.5	—	19.2	696.7	鏡形滓1	
38	南	—	—	—	50	3.6	53.6		
39	南	中層	—	—	28.5	—	28.5		
40	南	南アゼ南深掘	—	—	23.1	7.2	30.3		
41	南	南アゼ南深掘	—	324.5	—	—	324.5	鏡形滓1	
42	南	南アゼ土層2、4層	—	—	30.4	—	30.4		
43	南	南アゼ中層	—	313.6	—	—	313.6	133	鏡形滓1
44	南	南アゼ中～下層	—	77.6	—	—	77.6		
45	南	土層	—	189.4	114.4	202.9	506.7		
46	南	土層 (カクタン含む)	—	—	34.8	34.8	69.6		
47	南	海岸階深掘	—	—	—	7.4	7.4		
48	南	遺構検出(SD1)	—	364.3	65.7	174.8	504.8		
49	南	遺構検出(SD1)	1079.6	424.4	115.4	48.7	1669.1	鏡形滓2	
50	南	遺構検出(SD1)	—	96.4	33.7	34.4	164.5		
51	南	表土除去	807.7	—	—	—	807.7		
計			4599.3	11855	5447.4	4123.2	25994		

※No12取り上げ時の鉄の量



SD1 完掘状況 (北から)



SD1 完掘状況 (北東から)



北アゼ (北から)



南アゼ (南から)



北壁下段土層 (南から)



南壁下段土層 (北から)



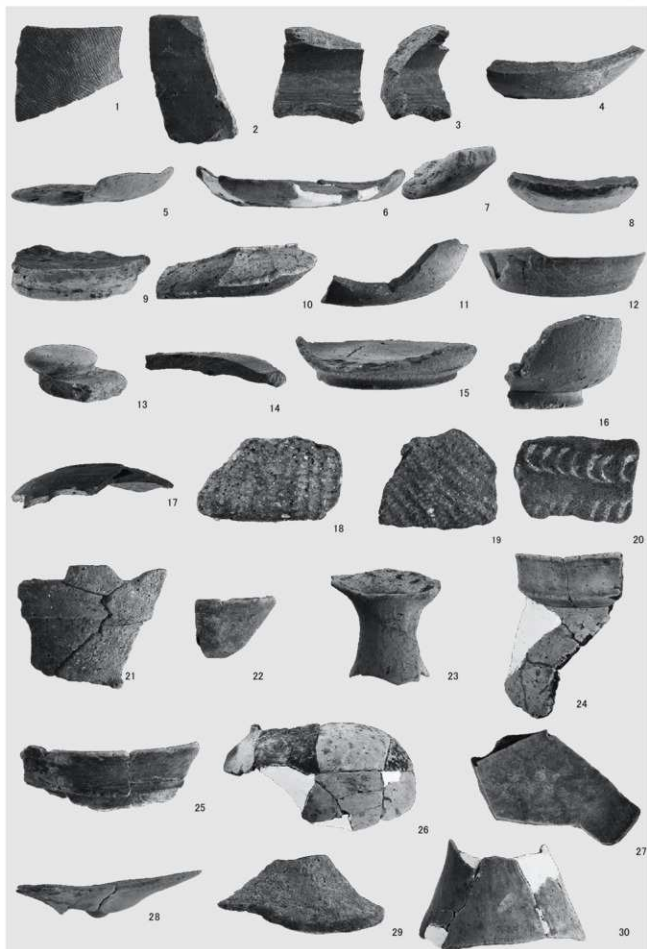
SX1 (南から)

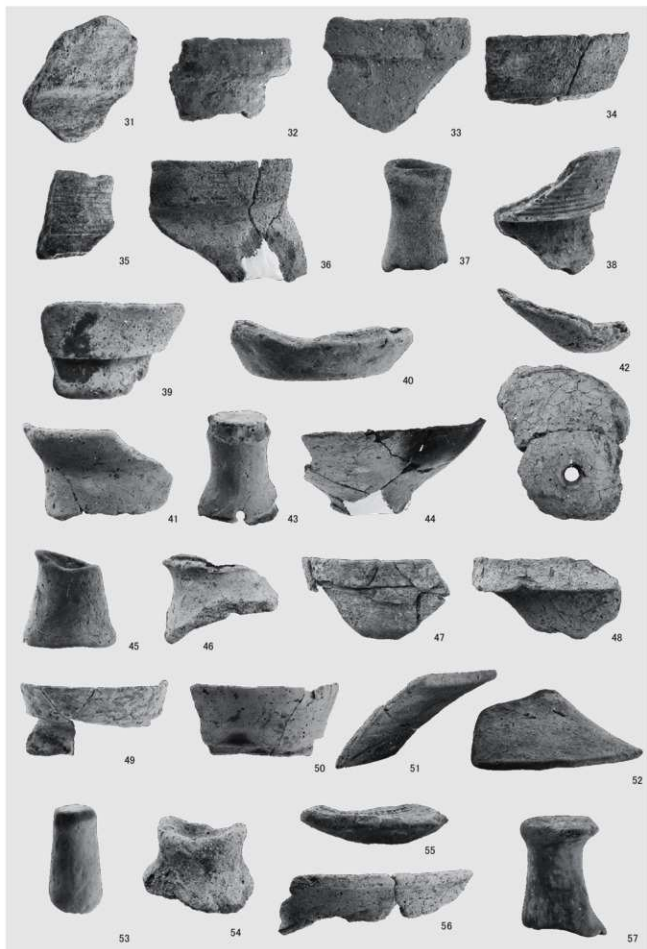


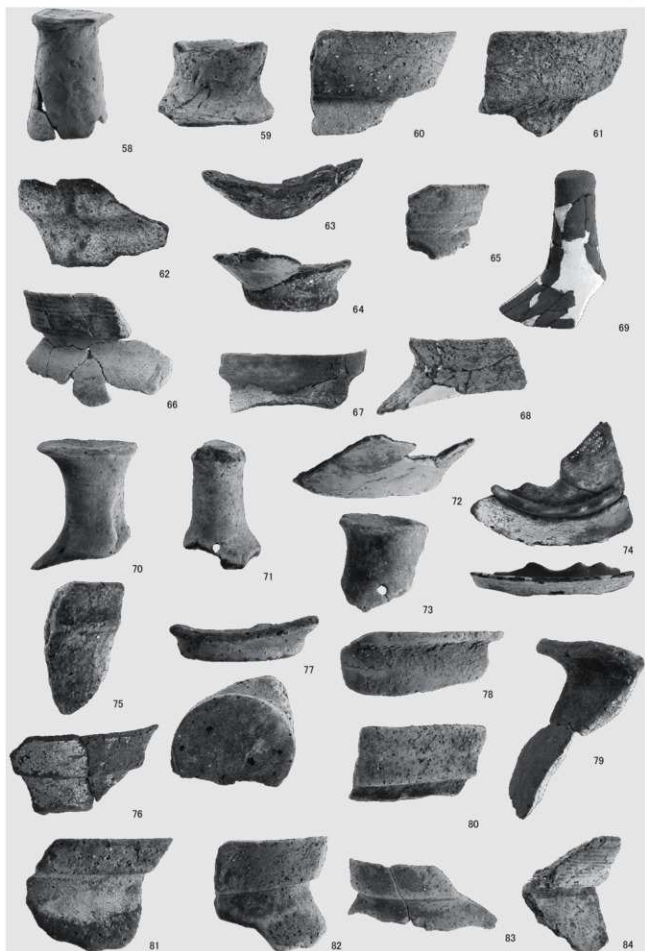
土器出土状況 (下層)

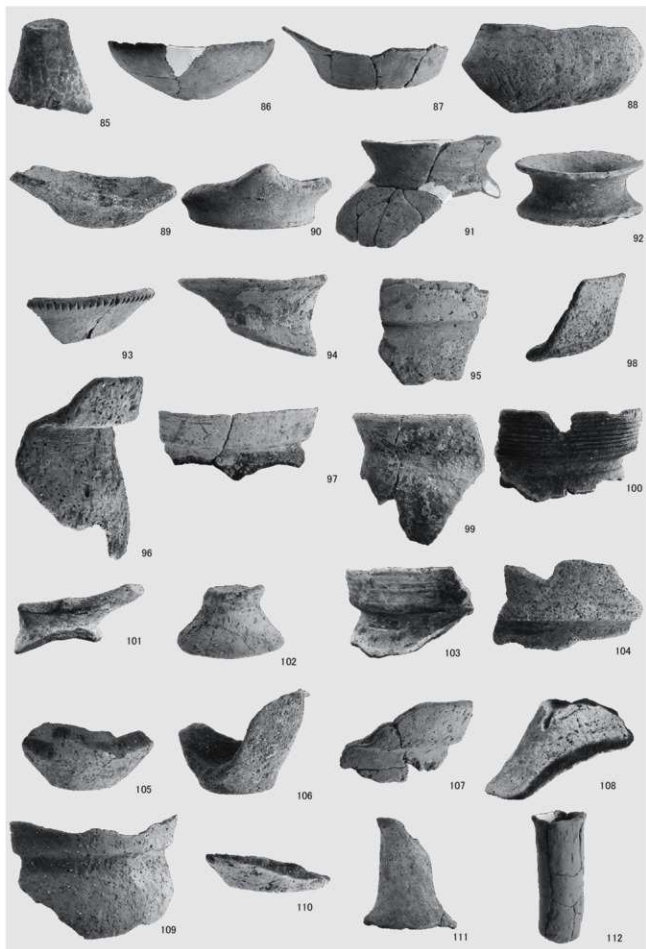


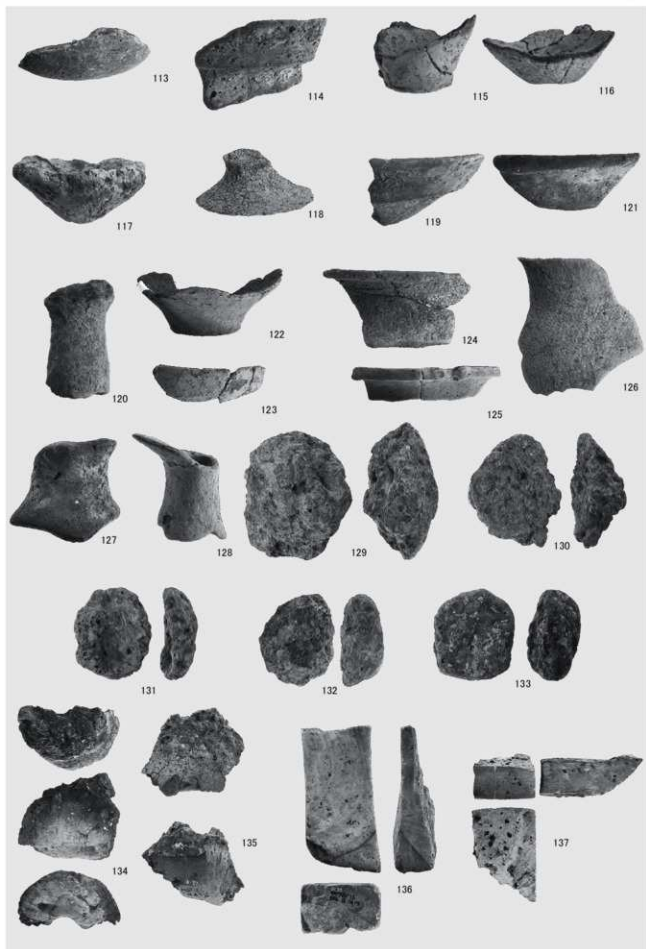
完備状況 (北西から)











報告書抄録

ふりがな	つばたまち かがつめBいせき							
書名	津幡町 加賀爪B遺跡							
副書名	地方道改築（一）筋谷津幡線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	熊谷葉月							
編集機関	公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL(076)229-4477 FAX(076)229-3731							
発行機関	石川県教育委員会・公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	平成29年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (新)	東経 (新)	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かがつめ いせき 加賀爪B遺跡	いしかわけん かほくぐん 石川県河北郡 つばたまち かがつめ 津幡町加賀爪	17202	1311900	36度 40分 7秒	136度 44分 46秒	20150522 ～ 20150723	460㎡	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
加賀爪B遺跡	集落	弥生時代、 奈良・平安 時代、中世	河道跡	弥生土器、土師器、須恵 器、珠洲焼、輪羽口、鉄 滓、砥石				
要約	調査区西半で、南北方向の河道跡を検出した。中・下層では、弥生時代後期～終末期の土器が多く、小片で脆いものが大半であることから、上流の集落からの流入と考えられる。河道北半は北下方に急傾斜しており、調査区外の本流への合流部と推定される。上層では、古代、中世の土器が少量出土しており、鉄滓、輪羽口の破片などの存在から、周辺で金属加工が行われていた可能性がある。							

津幡町 加賀爪B遺跡

発行日 平成29年3月30日
 発行者 石川県教育委員会
 〒920-8575 石川県金沢市糠月1丁目1番地
 電話 076-225-1842（文化財課）
 公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
 〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
 電話 076-229-4477
 E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp
 印刷 ソノダ印刷株式会社